

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 河合 一武

研究課題	<p>少年期サッカー選手の誕生日分布に関する国際比較 : 育成選手と普及選手におけるドイツ・スペインと日本との比較</p>	
報告の概要	<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>研究目的:ドイツ・スペイン・日本の3ヶ国において、12歳以下の育成選手(トッププロリーグ所属チームの下部組織に登録した選手)と普及選手(一般の少年サッカーチームで活動する選手)を対象に、異なるセレクションイヤー(選手の誕生日によるチーム分けの区切り)における誕生日の偏向について国際比較し、その偏向原因と解決策を検証することを目的とした。 研究概要:ドイツ・スペイン・日本3ヶ国の少年サッカー選手計1711人の誕生日データを収集・解析した。育成選手と普及選手それぞれについて比較検討する。 なお、当初日本と英国を対象とした比較を予定していたが、英国でのデータ収集が極めて困難であったためドイツ・スペインとの国際比較とした。</p>
	<p>研究成果</p>	<p>1) 育成選手においては、ドイツ・スペイン・日本の3ヶ国ともセレクションイヤーの最終四半期生まれの選手が少なく、国内外の先行研究と同様の結果であった。2) 育成選手の比較からは、ドイツとスペインでは1月～3月生まれの選手が、日本では4月～6月生まれの選手が、すなわちセレクションイヤーの最初四半期生まれの選手が他の四半期に比較して顕著に多いという結果を示した。育成選手に見られたこの偏向は、セレクションイヤーの最終四半期に生まれた選手にとっては不利益があるばかりか、最初の四半期に生まれた選手には利益がある状況が推察された。3) 普及選手の比較からは、ドイツとスペインではセレクションイヤーにおける誕生日の偏向が認められなかったのに対し、日本では顕著に認められた。ドイツとスペインでは、8・9月の学年スタート時に育成チームから離脱した育成選手が一般の少年サッカーチームへ新たに所属するケースがあり、これが受け皿となって誕生日の偏向に対して緩衝機能を果たしている可能性を示唆した。これに対して日本では、年度・学年制による唯一のセレクションイヤーが明確で、受け皿による緩衝機能が働かないために表出した結果であることが示唆された。</p>
研究業績	<p>・論文および著書  著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>なし</p>
	<p>・学会発表等  発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	<p>なし</p>
	<p>・その他  *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等</p>	<p>①研修会:(公財)日本サッカー協会主催47FA研修会 2018年2月11～12日、くまびあ(埼玉県熊谷市) ※本研修会参加により本学においてサッカー公認C級養成講習会開催が可能となる。 ②研修会:(一社)全日本大学女子サッカー連盟主催 公認C級コーチ養成講習会 チーフインストラクターとして講習会を運営、2018年2月12～17日 ③社会貢献活動:(一社)全日本大学女子サッカー連盟評議員</p>